
平成31年度
学生募集要項

2019

推薦入試

美術工芸学部

美術科

芸術学専攻

デザイン科

視覚デザイン専攻

製品デザイン専攻

環境デザイン専攻

工芸科

金沢美術工芸大学

KANAZAWA COLLEGE OF ART

大 学 概 要

1. 大学憲章と活動指針

大学憲章 Mission Statement

金沢美術工芸大学は、1946年、戦後の混乱と虚脱のなか、学問を好み、伝統を愛し、美の創造を通じて人類の平和に貢献することを希求する金沢市民の熱意により、工芸美術の継承発展と、地域の文化と産業の振興を目指して創立された。

以来、本学は豊かな自然環境と歴史的遺産のなかで、美術・工芸・デザインの分野における個性豊かな教育と学術研究に取り組み、文化都市金沢の発展の一翼を担ってきた。

素材を知り、技を磨き、現代に生きる表現に高めるべく「ものづくりの精神」を尊び、幅広い人間性に裏付けられた理論と技術の彫琢をとおして、芸術が社会に果たす役割を自ら探し行動する人材を育成し、世界における創造の機会の拡大と多様化に資するために、本学は知と創造の拠点となることを目指す。

活動指針 Mission Policies

<創作の意欲と能力を育てる教育の推進> Creative Potential

地域の文化資源を活用し、「手で考え、心でつくる」をモットーに創造力を高め、人間味あふれる個性と倫理を涵養し、未来社会を拓くクリエイターの育成を目指す。

<質の高い研究とオリジナリティの追求> Professional Individuality

深く芸術の神髄を探究し、諸分野における卓越した知識と技術の継承によって、固有の芸術領域を開拓し、創造的かつ先端的な文化の発信母体となる。

<地域と世界に貢献する芸術活動の展開> Public Contribution

市民から愛され、尊敬される芸術文化教育の中核を担い、地域社会の活性化と人々の幸福を願い、地球社会の平和と共存に貢献する。

<自立した大学の運営と公共性を重んじる組織の発展> Institution Independence

社会の変化に迅速かつ的確に対応できる教育体制と事務組織を構築し、自己決定、自己責任に基づく自主自立の大学運営を目指す。

2. 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

金沢美術工芸大学は、工芸美術の継承発展と地域の文化と産業の振興に寄与すべく1946年に創立されました。以来、個性豊かな教育・研究活動に取り組み、文化都市金沢の発展の一翼を担いつつ、美術・工芸・デザイン界で活躍する数多くの人材を輩出してきました。

金沢美術工芸大学は、「芸術が社会に果たす役割を自ら探し行動する人材」（大学憲章）を育成することを社会から負託された使命であると考え、次の三つの教育目標を掲げています。

1. 地域の文化資源を活用し、「手で考え、心でつくる」をモットーに創造力を高め、人間味あふれる個性と倫理を涵養し、未来社会を拓くクリエイターの育成を目指す。
2. 深く芸術の神髄を探究し、美術・工芸・デザイン分野における卓越した知識と技術を継承することによって、固有の芸術領域を開拓し、創造的かつ先端的な文化を担う人材の育成を目指す。
3. 市民から愛され、尊敬される芸術文化教育の中核として、地域社会の活性化と人々の幸福を願い、地球社会の平和と共存に貢献する人材の育成を目指す。

このような教育目標に共鳴し、美術・工芸・デザイン分野における知識と技術の担い手となる意欲と資質を備え、積極的に勉学に取り組む主体性のある人を金沢美術工芸大学は求めています。

入学を希望する諸君に金沢美術工芸大学が望むのは、デッサン等の実技能力を養っておくことに加え、高等学校までの各教科・科目をできる限りしっかりと習得しておくことです。広い視野と基礎的な学力があってはじめて、自らの問題意識を掘り下げて、より高度な制作・研究に進むことが可能になります。一般選抜試験では、すべての専攻が大学入試センター試験において「国語」及び「外国語」を必須の試験科目として課しています。入学後の授業では、制作課題のプレゼンテーションやレポートなど、言語による表現が要求されます。また、筋道立てて読みとる読解力はあらゆる学問・情報に接近するために不可欠な基礎的能力だと考えます。

金沢美術工芸大学では、各専攻がその理念と教育方針に応じて、入学者選抜試験における教科・科目及び実技、小論文、面接等の要件を設定し、明確な目的意識をもった人の入学を求めて「求める学生像」を公表しています。また、美術科芸術学専攻とデザイン科の全専攻と工芸科では推薦入試を実施しています。

学修に必要な技能と基礎的な学力を備え、「芸術が社会に果たす役割を自ら探し行動する人材」を目指して勉学に励むことができる人を金沢美術工芸大学は広く受け入れます。

美術科

美術科では、高度で創造的な技術の修得とその応用をはかり、古典から現代までをつらぬく美術理論を学びます。各専攻はそれぞれの専門にふさわしい目標を定め、特色あるカリキュラムを編成しています。将来、作家や研究者をはじめ、これからの美術分野で活躍し、貢献する人材の育成を目指しています。

このことから、美術科では次のような人を求めます。

日本画専攻

- ・ 絵画に関する基礎的な描写・表現力や観察力並びに知識を有する人
- ・ 芸術について強い興味と意欲が有り、将来広く美術の応用面に携わる事を望む人
- ・ 将来、作家として広く国内外で活躍したいと希望する人

油画専攻

- ・ 絵を描く事が好きで、自己表現に向けて努力できる人
- ・ 基礎的技術を高め、知識を深めたい人
- ・ 国際的な美術の動きに興味を持っている人

彫刻専攻

- ・ 造形の「美」や「表現」に対して強い好奇心と探求心を持つ人
- ・ 「自然」や「素材」と素直に向き合い、粘り強く制作に取り組める人
- ・ 開かれた世界で活躍する強い意志と夢を持った人

芸術学専攻

- ・ 美術の歴史や現状を、理論と実技の両面から探究するための基礎がある人
- ・ 芸術の歴史、理論、技法のさまざまな領域において、専門的研究を展開できる人
- ・ 研究成果を社会と地域に還元し、また国際的に貢献する意欲のある人

デザイン科

デザイン科は、それぞれの専門分野における教育をより高度なものとしつつ、3つの専攻にわたって連携した教育を行っています。グローバル化、多様化の進む現代の社会において、デザインの世界を広く眺めながら、優れた専門性を発揮できる人材の育成を目指しています。

このことから、デザイン科では次のような人を求めます。

視覚デザイン専攻

- ・ ものを創ることが何よりも好きで、アイデアを考えることが楽しくて仕方がない人
- ・ 柔軟性と独創性に優れ、自己の能力と技術を磨くことに喜びを感じる人
- ・ コミュニケーション能力を持ち、デザインを通して社会との関わりを大切にしている人

製品デザイン専攻

- ・ 自らの手で、ものづくりすることが好きで基礎的な表現力を備えている人
- ・ 人や生活道具への関心が高い人
- ・ デザイナーとして社会で活躍することへの意欲を持っている人

環境デザイン専攻

- ・ 場所の特性を理解する力、発想力、アイデアの展開力を磨こうとする人
- ・ 空間デザインに興味を持ち、そこで様々な演出を試そうとする人
- ・ 金沢のまちを舞台として、デザイン能力を高め、世界に羽ばたこうとする人

工 芸 科

工芸科は、1年次で様々な素材に触れる体験から基礎的な造形力を養います。2年次以降は陶磁、漆・木工、金工、染織のいずれかの領域を選択し、各々の素材に関する多様な技術の習得、現代の社会的ニーズに適応したより高度なものづくりや造形表現に取り組みます。4年間を通して世界に発信する工芸作家、研究者、デザイナーの養成を目指しています。

このことから、工芸科では次のような人を求めます。

- ・ 基礎的な表現力を有し、工芸に対し幅広く関心を持つ人
- ・ 素材、技法、表現に対して、柔軟な対応力を有する人
- ・ 将来、工芸を通して広く国内外で活躍したいと希望する人

3. 卒業後の資格

- (1) 本学を卒業する者には、学士（芸術）の学位が授与されます。
- (2) 教職に関する専門教育科目を履修し、美術科またはデザイン科を卒業した者には、中学校教諭1種免許状（美術）、高等学校教諭1種免許状（美術）が与えられます。また、教職に関する専門教育科目を履修し、工芸科を卒業した者には、中学校教諭1種免許状（美術）、高等学校教諭1種免許状（美術）、高等学校教諭1種免許状（工芸）が与えられます。
- (3) 博物館に関する専門教育科目を履修し、本学を卒業した者には、学芸員となる資格が与えられます。
- (4) 環境デザイン専攻を卒業した者には、二級建築士受験資格（実務経験不要）と、商業施設士補（講習会受講が必要）の資格が与えられます。

平成31年度学生募集要項

推 薦 入 試

1. 募 集 人 員

美術工芸学部

学 科 ・ 専 攻		募 集 人 員	備 考
美 術 科	芸 術 学 専 攻	入 学 定 員 15 人 中 5 人	石 川 県 枠 2 人
デ ザ イン 科	視 覚 デ ザ イン 専 攻	入 学 定 員 20 人 中 2 人	
	製 品 デ ザ イン 専 攻	入 学 定 員 20 人 中 2 人	
	環 境 デ ザ イン 専 攻	入 学 定 員 20 人 中 2 人	
工	芸 科	入 学 定 員 20 人 中 2 人	

2. 出 願 要 件

学 科 ・ 専 攻	出 願 要 件
美 術 科 芸 術 学 専 攻	<p>1 出願資格 次のいずれかに該当する者とする。</p> <p>(1) 高等学校又は中等教育学校を平成31年3月卒業見込みの者 (平成30年4月以降に卒業した者を含む。)</p> <p>(2) 外国において学校教育における12年の課程を平成31年3月31日までに修了見込みの者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの</p> <p>(3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定し、又は指定した在外教育施設の当該課程を平成31年3月31日までに修了見込みの者</p> <p>※なお、石川県枠（2人）により受験する者の出願資格は、石川県に所在する高等学校を平成31年3月卒業見込みの者とする。</p> <p>2 推薦要件 次のいずれにも該当し、学校長が責任を持って推薦できる者とする。</p> <p>(1) 国語と外国語の成績が優れ、歴史の学習に関心が強いことが特に求められる。</p> <p>(2) 本学において、美学・美術史の調査・研究に熱意を持ち、多様な美術実技の修得に意欲があり、なおその上で芸術文化の教育普及に関心がある者</p> <p>(3) 学校長が、上記2の(1)、(2)の本専攻が望む学生像に合致していると判断し、向学心、人物、能力、素質及び健康等について適性と認める者</p> <p>(4) 合格した場合、必ず本学に入学することを確約できる者 なお、1校から推薦できる人数は、2人までとする。</p>

学 科 ・ 専 攻		出 願 要 件
デ ザ イ ン 科	視覚デザイン専攻	<p>1 出願資格</p> <p>次のいずれかに該当する者とする。</p> <p>(1) 高等学校又は中等教育学校を平成31年3月卒業見込みの者 (平成30年4月以降に卒業した者を含む。)</p> <p>(2) 外国において学校教育における12年の課程を平成31年3月31日までに修了見込みの者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの</p> <p>(3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定し、又は指定した在外教育施設の当該課程を平成31年3月31日までに修了見込みの者</p> <p>2 推薦要件</p> <p>次のいずれにも該当し、学校長が責任を持って推薦できる者とする。</p> <p>(1) デザイン・工芸・美術関係の分野において特に秀でている者</p> <p>(2) 学業成績が優秀な者</p> <p>(3) 志望する専攻分野について明確な問題意識を持ち、熱意を持って勉強しようと考えている者</p> <p>(4) 合格した場合、必ず本学に入学することを確約できる者</p> <p>なお、1校から推薦できる人数は、1専攻ごとに若干名とする。</p>
	製品デザイン専攻	
	環境デザイン専攻	

学 科	出 願 要 件
工 芸 科	<p>1 出願資格</p> <p>次のいずれかに該当する者とする。</p> <p>(1) 高等学校又は中等教育学校を平成31年3月卒業見込みの者 (平成30年4月以降に卒業した者を含む。)</p> <p>(2) 外国において学校教育における12年の課程を平成31年3月31日までに修了見込みの者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの</p> <p>(3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定し、又は指定した在外教育施設の当該課程を平成31年3月31日までに修了見込みの者</p> <p>2 推薦要件</p> <p>次のいずれにも該当し、学校長が責任を持って推薦できる者とする。</p> <p>(1) 工芸・美術・デザイン関係の分野において特に秀でている者</p> <p>(2) 学業成績が優秀な者</p> <p>(3) 工芸に対して幅広く関心を持ち、熱意を持って勉強しようと考えている者</p> <p>(4) 合格した場合、必ず本学に入学することを確約できる者</p> <p>なお、1校から推薦できる人数は若干名とする。</p>

3. 出 願 期 間

学 科 ・ 専 攻		出 願 期 間
美術科	芸 術 学 専 攻	平成30年11月1日（木）～平成30年11月6日（火） 必 着
デザイン科	視覚デザイン専攻 製品デザイン専攻 環境デザイン専攻	
工 芸 科		

(注) ・直接持参する場合の出願受付時間は、土曜日、日曜日、祝日を除き、午前9時から午後4時までとします。
 ・郵送による出願は、受付期間内必着としますので、郵送期間を十分考慮のうえ、ゆとりを持って送付してください。

4. 出 願 方 法

学 科 ・ 専 攻		出 願 方 法
美術科	芸 術 学 専 攻	出願書類等は、 学校長が取りまとめ 、本要項に添付の「 推薦入試願書在中 」と記載のある封筒に入れ、出願期間内に 書留速達郵便で郵送又は直接持参 すること。
デザイン科	視覚デザイン専攻 製品デザイン専攻 環境デザイン専攻	
工 芸 科		

◎受験に関する問合せ先・願書送付先

〒920-8656 金沢市小立野5丁目11番1号
 金沢美術工芸大学事務局 電話 (076) 262-3531

5. 提 出 書 類 等

本要項に添付の用紙を使用し、本学所定の封筒に次の書類を一括して入れ提出してください。

出願書類の受理後は、いかなる理由があっても書類の返却、記載事項の変更及び入学考査料の返還はしません。

(1) 全ての専攻に共通して提出する書類等

① 入 試 願 書 票 受 験 票	本要項に添付の用紙に、必要事項を記入すること。 写真は3か月以内に撮影した無帽上半身のもの（縦4cm×横3cm）を受験票及び写真の所定欄に貼付すること。
② 推 薦 書	本要項に添付の用紙に、学校長が作成し厳封して提出すること。 ※ 出願資格の(2)、(3)に該当し、学校長の推薦書が得られない場合は、本学に問い合わせること。
③ 志望の動機書	本要項に添付の用紙に、志望の動機を600字以内にまとめること。 (志望者の自筆によること。)
④ 調 査 書	文部科学省所定の様式により学校長が作成し厳封して提出すること。 備考欄に記載漏れのないように注意すること。

⑤ 振込証明書	<p>入学考査料17,000円 この要項に添付してある入学考査料振込依頼書 (P13) を使用し、入学考査料を金融機関窓口で振り込み後 (ゆうちょ銀行は不可)、振込証明書を他の出願書類と一緒に提出すること。 振り込む際には、手数料が必要。(北國銀行本・支店から振り込む場合は、手数料は無料) 平成30年10月1日から振込可能。 ATM (現金自動預払機) による振込は不可。</p>
⑥ 住所票 (本人用)	<p>本要項に添付の用紙に、注意事項を読んで記入すること。 2枚とも記入すること。</p>
⑦ 返信用封筒 (学校長用)	<p>本要項に添付の「推薦入試願書受理書在中」及び「選考結果通知書」の封筒に、推薦学校の郵便番号、住所、学校名、学校長名を記入し、それぞれに切手 (362円) を貼付すること。</p>

(2) 視覚デザイン専攻・製品デザイン専攻・環境デザイン専攻志願者の提出書類

⑧ デザイン関連作品写真提出書	<p>本要項に添付の用紙に、在籍 (出身) 学校が必要事項を記載すること。 本人が制作した以下の作品4点 (テーマは各自設定、サイズ、表現方法は自由) の写真2L判 (又はキャビネ判) を必ず「作品写真貼付書 (デザイン科志願者用)」に貼付すること。 ・鉛筆デッサン2点 ・平面作品又は立体作品から2点 ※出願資格の (2)、(3) に該当し、在籍 (出身) 学校による記載が不可能な場合は、本学に問い合わせること。</p>
-----------------	--

(3) 工芸科志願者の提出書類

⑨ 工芸科作品写真提出書	<p>本要項に添付の用紙に、在籍 (出身) 学校が必要事項を記載すること。 本人が制作した以下の作品各1点の写真2L判 (又はキャビネ判) を必ず「作品写真貼付書 (工芸科志願者用)」に貼付すること。 ・作品1：鉛筆デッサン (モチーフは植物、画面サイズはB3又は四つ切り) ・作品2：色彩表現 (テーマは各自設定、画面サイズはB3又は四つ切り) ・作品3：自画像 (表現方法は自由) ※出願資格の (2)、(3) に該当し、在籍 (出身) 学校による記載が不可能な場合は、本学に問い合わせること。</p>
--------------	---

6. 受験票の送付

学 科 ・ 専 攻		受験票発送期日
美術科	芸術学専攻	平成30年11月7日(水)
デザイン科	視覚デザイン専攻 製品デザイン専攻 環境デザイン専攻	
工芸科		

学校長あて第1次選考の結果を郵送します。また第1次選考合格者に、**受験票**を郵送します。
(注意事項) **受験票**は、入学手続きのときに必要となるので、大切に保管してください。

7. 出願にあたっての注意事項

国公立大学の推薦入試（大学入試センター試験を課す場合・課さない場合を含めて）へ出願することができるのは、1つの大学・学部です。

8. 身体に障がいのある推薦入学志願者との事前相談

本学に入学を志願する者で、身体に障がい（学校教育法施行令第22条の3に定める程度）がある入学志願者で、受験上及び修学上特別な配慮を必要とする者は、出願前に事前相談申請書等を提出し、相談を申し出ること。

なお、事前相談は、次のとおりとする。

① 相談の時期

学生募集要項発表後から平成30年10月12日（金）まで
9時から16時まで（土・日曜及び祝日を除く。）

② 相談の方法

相談申請書（本学所定の様式に健康診断書等必要書類添付）を提出することとし、必要な場合は、本学において志願者又はその立場を代弁し得る在籍（出身）学校関係者等との面接等を行う。

③ 相談先

◎事務局 電話 076-262-3531

9. 選考方法

学 科 ・ 専 攻		選 考 方 法
美術科	芸術学専攻	1 大学入試センター試験を免除する。 2 選考は、第1次選考及び第2次選考により行う。 第1次選考は、推薦書、調査書、志望の動機書を審査して合格者を決定する。 第2次選考は、第1次選考の合格者に対して、小論文と面接によって合格者を決定する。 なお、面接においては、志望動機、入学後の学習計画、小論文、デッサン作品（1点）等について口頭説明を求める。 提出するデッサン作品は、第2次選考当日に、本募集要項に綴じ込んでいるデッサン作品貼付書に必要事項を記入し、作品に貼付したうえで持参すること。
デザイン科	視覚デザイン専攻 製品デザイン専攻 環境デザイン専攻	1 大学入試センター試験を免除する。 2 選考は、第1次選考及び第2次選考により行う。 第1次選考は、推薦書、調査書等提出書類及び作品の写真を審査して合格者を決定する。 第2次選考は、第1次選考の合格者に対して、実技試験と面接によって合格者を決定する。 なお、面接においては、志望動機、提出作品、実技作品等について口頭説明を求める。
工 芸 科		1 大学入試センター試験を免除する。 2 選考は、第1次選考及び第2次選考により行う。 第1次選考は、推薦書、調査書等提出書類及び作品の写真を審査して合格者を決定する。 第2次選考は、第1次選考の合格者に対して、実技試験と面接によって合格者を決定する。 なお、面接においては、志望動機、提出作品、実技作品等について口頭説明を求める。 写真で提出した作品のうち、第2次選考当日に、作品1（鉛筆デッサン）、作品2（色彩表現）を持参すること。

10. 第2次選考の実施方法

学 科 ・ 専 攻		実 施 方 法	
		個別学力検査等	面 接
美術科	芸術学専攻	小論文 (ただし造形作品鑑賞を含む。)	
デザイン科	視覚デザイン専攻	実	平面構成デザイン
	製品デザイン専攻	技	製品のデザイン
	環境デザイン専攻	試	構成デザイン
工 芸 科		験	立 体 表 現

11. 試験期日・試験時間

学 科 ・ 専 攻	試 験 期 日 ・ 試 験 時 間	試 験 場 所
美術科	第1次選考（書類審査のみ）	本 学
	第2次選考 小論文 平成30年11月17日(土) 9:00～11:00	
	面接 13:00～17:00(一人20分程度)	
デザイン科	第1次選考（書類審査のみ）	本 学
	第2次選考 平成30年11月17日(土) 実技試験 8:30～14:20 (休憩 12:00～12:50)	
	面接 14:30～16:30(この間に適宜行う。)	
工 芸 科	第1次選考（書類審査のみ）	本 学
	第2次選考 平成30年11月17日(土) 実技試験 8:30～12:30 (休憩 12:30～13:20)	
	面接 13:30～16:30(この間に適宜行う。)	

(注意事項) 試験場の下見は認めません。昼食は必ず持参してください。受験者は必ず、試験開始時刻30分前までに、本館棟1階エントランスホールに集合してください。

12. 試験当日持参する用具等

デザイン科および工芸科の実技試験に必要な持参用具は、次のとおりとします。

視覚デザイン専攻	鉛筆、消しゴム、直定規、三角定規、コンパス、 着彩用具一式（絵具は本学にて用意）、（色見本は使用禁止）
製品デザイン専攻	鉛筆、消しゴム、直定規、三角定規、コンパス、着彩用具一式
環境デザイン専攻	鉛筆、消しゴム、カッティング用直定規、三角定規、コンパス、 カッターナイフ（サークルカッターは使用禁止）
工 芸 科	筆記用具一式（これ以外の必要な用具は本学にて用意）

13. 合格発表

学科・専攻		発表日時	発表場所等	備考
美術科	芸術学専攻	平成30年11月24日(土) 午前10時	本学正面玄関	合格者には、合格通知書及び入学手続に関する通知を郵送する。 学校長には、別途選考の結果を郵送する。
デザイン科	視覚デザイン専攻 製品デザイン専攻 環境デザイン専攻	平成30年11月24日(土) 午前11時	本学ホームページ (受験番号のみ)	
工芸科				

※ 電話等による、合否の問い合わせには一切応じられません。

14. 入学手続

(1) 入学手続期間

美術科(芸術学専攻)	平成30年11月26日(月)から平成30年12月3日(月)まで 平日のみ午前9時から午後5時まで。(土・日曜、祝日は除く。) 窓口又は郵送で受け付ける。
デザイン科(各専攻共通)	
工芸科	

- (2) 提出書類 本学受験票
入学手続申請書
宣誓書、身元保証書等

(3) 入学金及び授業料

- ① 入学金 金沢市内居住者 282,000円 (入学手続き時に納入)
上記以外の者 423,000円 (入学手続き時に納入)
- ② 授業料 年 額 535,800円
前期分 (4月～9月) 267,900円 (4月30日までに納入)
後期分 (10月～3月) 267,900円 (10月31日までに納入)

(4) その他の経費

- ① 成美会費(後援会費) 60,000円 (入学手続き後に納入)
② 学生自治会費 10,000円 (入学手続き後に納入)
③ 研修旅行費 美術科(芸術学専攻) 100,000円 (入学手続き後に納入)
デザイン科(各専攻共通) 120,000円 (入学手続き後に納入)
工芸科 130,000円 (入学手続き後に納入)
- ④ その他、学外研修費、用具・材料費等の学修経費

※ 入学金、授業料等は国立大学法人に準じて改定される場合があります。

※ 在学中に授業料が改定された場合には、改定時から新授業料が適用されます。

※ 納入した入学金等は返還いたしません。

(5) 入学手続場所 本学事務局又は郵送

(6) 留意事項

- ① 入学手続期間内に入学手続を完了しない場合は、入学を辞退したものと取扱う。
- ② 入学手続後の変更は、一切認めない。
入学を辞退する場合は、学校長等と連署で平成30年12月3日までに推薦入学辞退願(様式任意A4判)により学長に願い出て、推薦入学辞退許可を得なければならない。
- ③ 1つの国公立大学に入学手続を行った者は、これを取り消して他の国公立大学に入学手続を行うことはできない。

- ④ 本学の推薦入学合格者は、他の国公立大学・学部の個別学力検査等を受験しても、その大学・学部の合格者とはならない。
ただし、入学手続後、推薦入学辞退願を提出して、入学辞退を許可された場合を除く。

15. 推薦入学試験と一般選抜入学試験を受験する場合

- (1) 推薦入学試験に合格しなかった者が、一般選抜の受験をしようとする場合は、本学が指定した大学入試センター試験の教科・科目及び個別学力検査等を受験しなければなりません。
- (2) 本学に出願する場合
出願書類「平成31年度学生募集要項」(一般選抜)を参照してください。(平成30年10月中旬発表予定)

16. 個人情報の取扱い

独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律(以下「個人情報保護法」という。)に基づき、本学が入学者選抜を通じて取得した個人情報の利用については、次のとおりです。

(1) 利用目的について

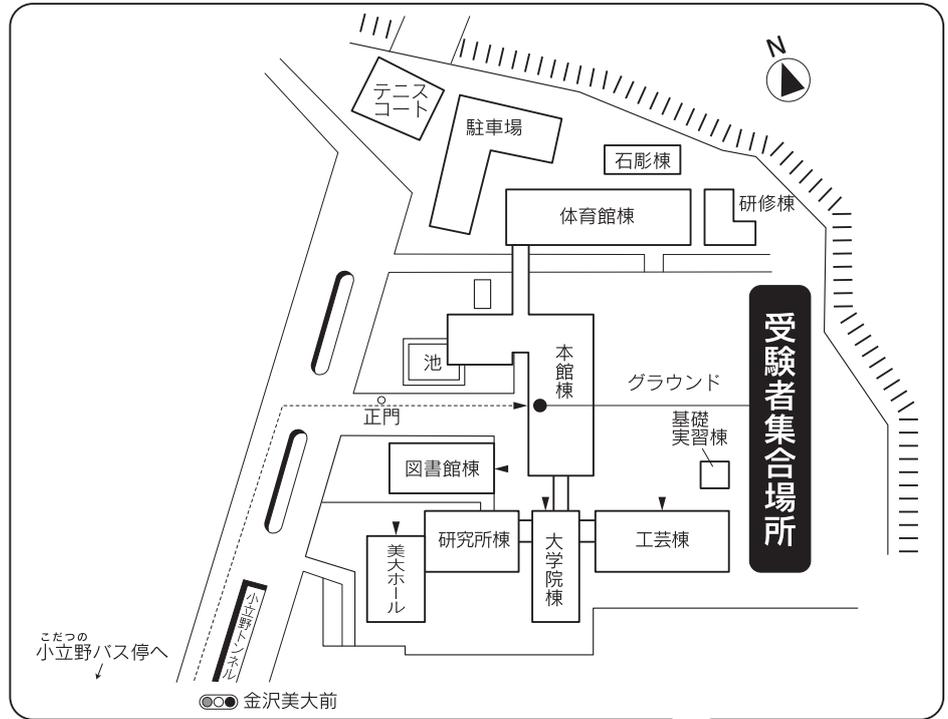
- ① 合格者の入学手続に係わる業務
- ② 入学手続者の入学後の学籍管理等の修学に係わる業務及び健康診断等の保健管理に係わる業務
- ③ 入学手続者の入学金及び授業料徴収等の納付金管理に係わる業務
- ④ 1年次における入学金免除及び授業料免除並びに奨学生選考等の修学支援に係わる業務
- ⑤ 個人が特定できない形で統計処理業務及び入学案内業務並びに本学における入学者選抜に関する調査研究

(2) 第三者への個人情報の提供について

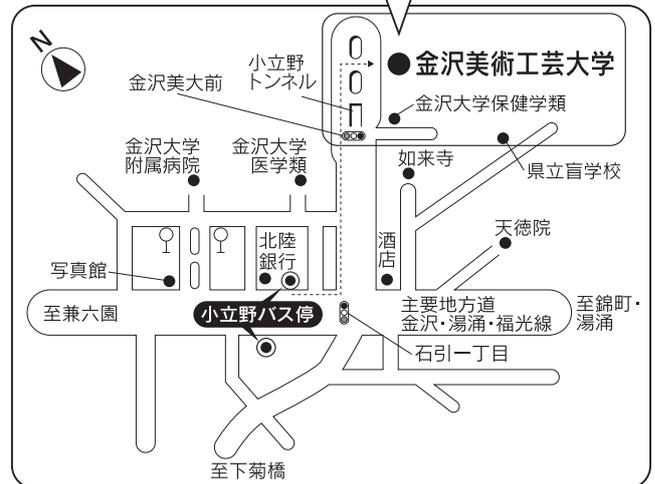
本学が取得した個人情報は、個人情報保護法第9条に規定されている場合を除き、出願者本人の同意を得ることなく他の目的で利用し、又は第三者に提供することはありません。ただし、次の場合必要最低限の情報を提供することがあります。

- ① 上記(1)①～⑤の個人情報を取扱う業務を、個人情報の適切な取扱いに関する契約を締結したうえで、外部の事業者へ委託する場合
- ② 国公立大学の分離分割方式による合格及び追加合格決定業務を円滑に行うため、合格及び入学手続き等に関する個人情報(氏名及び大学入試センター試験の受験番号に限る。)を独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送達する場合
- ③ 本人の利益となる次の学外関係者に情報提供する場合
 - 1) 成美会
 - 2) 同窓会

● キャンパスレイアウト



● 交通アクセス



大学への交通

●電 車／金沢駅下車

●バ ス／金沢駅東口（兼六園口）バスターミナル7番のりば

- ①東部車庫行、①金沢学院大学行、
- ②湯涌温泉行、②北陸大学薬学部行、②北陸大学太陽が丘行、
- ⑥駒帰行（乗車約25分）

金沢駅東口（兼六園口）バスターミナル6番のりば

- ⑬湯谷原行、⑭田上住宅行（乗車約25分）

金沢駅西口（金沢港口）バスターミナル5番のりば

- ⑩東部車庫行、⑩金沢学院大学行、⑬湯谷原行（乗車約25分）

いずれのバスも「小立野（こだつの）」で下車してください。（徒歩約8分）

タクシー／金沢駅から約20分

●自動車／北陸自動車道

金沢森本ICから約15分

金沢西ICから約25分

●航空機／小松空港から

バス／リムジンバス（乗車約40分）

金沢駅下車

（乗り換え、東・西口から電車の場合に同じ）



金沢美術工芸大学

KANAZAWA COLLEGE OF ART

公立大学法人 金沢美術工芸大学

〒920-8656 石川県金沢市小立野5丁目11番1号
TEL 076-262-3531 FAX 076-262-6594

5-11-1 Kodatsuno Kanazawa Ishikawa
920-8656 Japan
TEL +81-76-262-3531 FAX +81-76-262-6594
<http://www.kanazawa-bidai.ac.jp>

